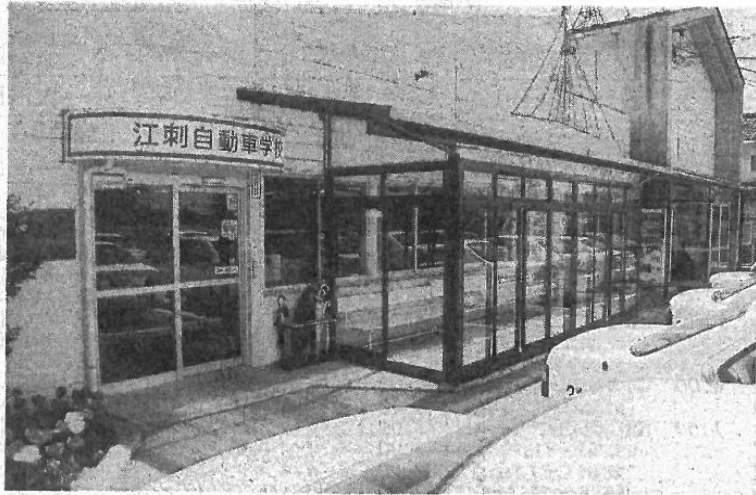


あの会社 その仕事



江刺自動車学校の社屋。高齢者講習、技能講習を含めると、同校を年間1800人前後が来所する

半世紀ほど前と同じ場所で開催した財団法人岩手県南自動車学校が前身。国の公益法人改革の流れで、15年前に株式会社へ組織転換し、現在の社名と校名を冠した。同社によると、県内に29校

ある自動車学校の中では4番目、県南では最も古い歴史を持つ。

同校の特色の一つが、県内で初めて導入した担任制による教習。教習車に乗る度に指導員が違う非効率性を改め、同一指導員による丁寧な指導を徹底する仕組みだ。同校では、高校生らの普通免許の取得が集中する時期に当たる11月～翌年3月、7月～8月を中心に実施している。

生徒が指導員を選ぶ「指名制度」とは異なり、入校直後に行う適性検査を経て、担任を割り振る。特別な事情を除いて生徒、指導員双方の好みを併し、教習効果の最大化を図る。力量を問われる立場の指導員側は、教習内容を着実に習得させる責任も負い、生徒の9割以上が満足しているという。

「担任制教習は間違いない。そこを深化させる試みが続けたい」と朽木聖好社長(50)。「生徒さんの悩みは一人一人違う。その人の側に立ち、気持ちを一緒にしないと

地域貢献 教習通じて半世紀



「明るくアットホームな雰囲気を大切にしている」という江刺自動車学校の事務所内

(株)江刺自動車学校

できない。そのための指導員側の研修も大事になってくる」と語る。

普通自動車免許、けん引、大型特殊、自動二輪など各種運転免許だけでなく、フォークリフトや玉掛け、小型移動式クレーン、車両系建設機械など若手労働局長登録の技能講習も連動して受けられるのも同校の強みだ。

昨年10月から経営トッ

プを務める朽木社長は、「伝統の継承と革新性」が社風と説明。「老舗でありながらパイオニアでありたい」とも話す。担任制教習などの実績が認められ、13(平成25)年に東北管区警察局長の優良校表彰なども受けている。

朽木社長は、少子高齢化時代に応じた自動車学校運営を経営上の課題に挙げる。全国で高校生ら

若い年代の普通自動車免許取得者が10年前に比べ半減している現状を踏まえ、「経営的に厳しい面がある」と説明。一方で「一人一人の教習に関する

理解度や習熟度を一層高められる時代になってきた」とも指摘する。逆に増加傾向にある高齢者講習を通し、お年寄りが絡む輪禍の抑止に努めるなど、地域社会に貢献し続ける決意も示す。

(若林正人)

【企業データ】
江刺区愛宕字梁川34-1。資本金は3550万円。従業員19人で、うち指導員は10人。前身の自動車学校は1962(昭和37)年に開校していたが、2001(平成13)年に組織を株式会社化した。電話35・1237。



校長 佐々木謙さん(63)

「卒業証明書の交付の際には、交通事故の悲惨さを伝えることも、ルールはもちろんです。マンナもよく守る安全運転者になってほしいと毎回話しています」